

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	6月中	
基準日	定時株主総会および期末配当金 3月31日 中間配当金(実施する場合) 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。	
単元株式数	100株	
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	
	証券会社に口座を お持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部	
電話お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)	
各種手続取扱店 (住所変更、株主配 当金受取り方法の 変更等)	お取引の証券会社になり ます。	みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取り扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱い できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行ならびにみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、 取・買増以外の株式売買はできま せん。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく 必要があります。	特別口座では、単元未満株式の買 取・買増以外の株式売買はできま せん。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく 必要があります。
公告方法	電子公告によって行います。 (http://www.carlithd.co.jp) ただし、事故その他止むを得ない事由によって電子公告による公告を する事が出来ない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。	
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部	



株主通信

平成27年4月1日 ▶ 平成28年3月31日

証券コード 4275

株主優待制度のご案内

毎期末(3月31日)、株主名簿に記載されている株主の皆様へ6月末に以下のとおり株主優待券をお送りいたします。

所有株式数	優待内容
100株以上500株未満	1,500円相当ギフト券
500株以上1,000株未満	2,000円相当ギフト券
1,000株以上	2,500円相当ギフト券



ホームページのご紹介

<http://www.carlithd.co.jp>


TOP PAGE



IR PAGE





前期の成果と今後の戦略について
新社長の廣橋 賢一が語る。

カーリットグループ一体となり 盤石な未来を築いてまいります。

代表取締役社長 廣橋 賢一

た。固定資産売却益を計上した前期に比べると減少しております。

QUESTION・3

**3つのセグメントでは
どのような事業がけん引したのでしょうか。**

廣橋 「化学品事業部門」が売上と利益の両面で全体を牽引しました。化薬分野では産業用爆薬が土木工事で需要増となったほか、車検台数の増加により、緊急脱出時ガラス破碎機能付「ハイフレアープラスピック」が健闘しました。受託評価分野では危険性評価試験、電池試験とも大幅な増販となりました。化成品分野では、パルプ漂白用の塩素酸ナトリウムは微増だったものの、過塩素酸アンモニウムがH-IIロケット用途の需要増加により大幅な増販となりました。過塩素酸は輸出が好調だったほか、除草剤や防蟻剤も増販となりました。電子材料分野は、電気二重層キャパシタ用電解液とアルミ電解コンデンサ向

け材料が海外向けで伸びたものの、ピロール関連製品と機能材料製品は減販となりました。平成28年2月に連結子会社化した三協実業(株)が当期の業績に寄与しました。

「ボトリング事業部門」は、一部取引先の会計処理方法の変更により、売上が減少しましたが、営業利益は主力の緑茶や缶コーヒーが新製品の上市と既存製品のリニューアルで増販となり、前期を上回りました。

「産業用部材事業部門」は、シリコンウェーハが新興国における価格競争の激化で減販となったほか、中国を中心としたアジア地域の景気後退により、自動車や建機用のばね・座金製品が減販となったことが響き、減益となりました。金属加工品は、復興関連案件の減少により、アンカー、リテーナとも減販となりましたが、並田機工(株)の傘下に設立したアジア技研(株)は、平成27年10月にスタッド事業を譲り受け、業績に寄与しています。

QUESTION・1

**新社長就任にあたり、
いまの率直な心境からお聞かせください。**

廣橋 4ケ年の中期経営計画「礎100」がスタートして丸1年が経過しました。その途中で大役を仰せつかり、いまは身の引き締まる思いです。昨年度スタートした新中期経営計画の目標は、“次の100年”につながる事業基盤をしっかりと構築することにあります。総員が、その意義を十分に理解し、取り組みを進めることが大事で、私も、その先頭に立って精一杯走る覚悟です。

QUESTION・2

**新中期経営計画がスタートしましたが、
この1年の事業環境と業績はいかがでしたか。**

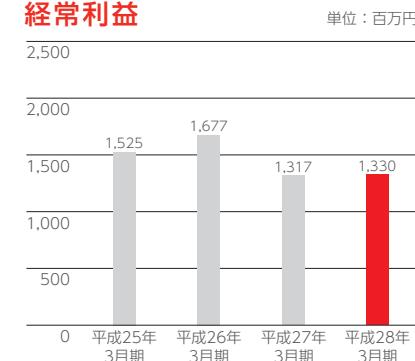
廣橋 中国経済の減速や年明け以降の円高・株安など不安定な状況が続きましたが連結ベースで売上高は463億7千8百万円(前期比0.6%増)、営業利益は12億5千万円(同4.2%増)、経常利益は13億3千万円(同1.0%増)と、多少なりとも前期の数字を上回ることができました。当期純利益は7億5千4百万円(同29.1%減)となりまし

連結業績ハイライト

売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



※当社は設立第3期であるため、参考として平成25年3月期は、日本カーリット(株)の連結会計年度における数字を記載しております。

QUESTION・4

2年後の創業100周年に向けて、“礎づくり”をテーマに、新しい動きも始まっているようです。

廣橋 カーリットグループと競合関係にある化学メーカーも生き残りを賭けています。それらのライバル企業に肩を並べて戦うには、「成長基盤強化」「収益基盤強化」「グループ経営基盤強化」の3つを成し遂げねばなりません。次の100年を見据えた「礎100」では、「海外展開」と「魅力ある新製品」がポイントになると思います。今年



ひろし けんいち
廣橋 賢一プロフィール

群馬県出身の64歳。昭和50年4月に日本カーリット(株)に入社。以来、経理畑などを主に歩み、取締役兼常務執行役員管理本部長などを務める。平成25年10月のカーリットホールディングス(株)設立後は、取締役兼常務執行役員として人事部・総務部・秘書室・財務部・法務部・広報部・ITシステム推進部を統括し、本年6月から代表取締役社長に就任。趣味はゴルフ、アコースティックギター。好きな言葉は「継続は力なり」。

度は、新製品開発のスピードアップを図るためR&Dセンター内に「高エネルギー研究所」「環境エネルギー研究所」「ライフサイエンス研究所」「新材料研究所」という4つの研究所を新設したほか、研究・開発テーマの企画立案・マーケティング等を強化するため「開発企画室」を新設しました。残りの3年間で成果につなげるには、ポイントをしばってやり抜く覚悟が必要です。ここで、この1年の新しい取り組みについてご紹介しましょう。

一つ目は、昨年7月に発表した「サーモグラフィ用材料分野へ参入」です。欧州では歩行者の夜間の安全を確保するため、自動車へのナイトビジョンカメラの搭載が始まっています。ところが夜間用カメラのレンズに用いられる原料資源の絶対量が少なく、普及の障害になっています。当社は、資源が豊富で低コスト化が可能なシリコンに目を付け、新しい製造法の下、低コストで高性能なサーモグラフィ用の結晶材料を開発し、この分野に本格的に参入します。

二つ目は、並田機工(株)の傘下に加えたアジア技研(株)によるスタッド事業への参入です。スタッドは溶接用のボルトのことですが、スタッドと母材の間に放電し、先端部に発生した火花によって瞬間的に溶接する方法です。溶接痕が残らないのと熱の影響が少ないため、橋梁から自動車、電機関連など幅広い用途が期待できます。

三つ目は、研究開発活動のうち、ライフサイエンス分野においてわくわく感のある成果が出始めています。一例として、ポトリング事業において排出される茶殻から、抗菌・美白・アンチエイジングなどに役立てられる有効な成分を抽出する自社技術の確立があります。今後、美容・健康市場へ多くの新しい素材を提案ができるものと期

待しています。

いずれも事業基盤の強化に繋がる取り組みだけに、成長への道筋を付けたいと考えています。

QUESTION・5

もう一つの柱となるのが海外展開ですが、こちらは何か動きがありましたか。

廣橋 当社は中国やシンガポールに販売拠点となる海外現地法人を有していますが、モノづくりにおける海外展開では出遅れていました。

昨年12月に連結子会社である並田機工(株)がベトナムで耐火・耐熱金物を製造・販売する100%出資会社を設立する計画を発表しました。当社グループのASEAN地域における初の生産拠点となります。グループの総力を結集して一気呵成に成長著しいASEANへの展開を図りたいと考えています。

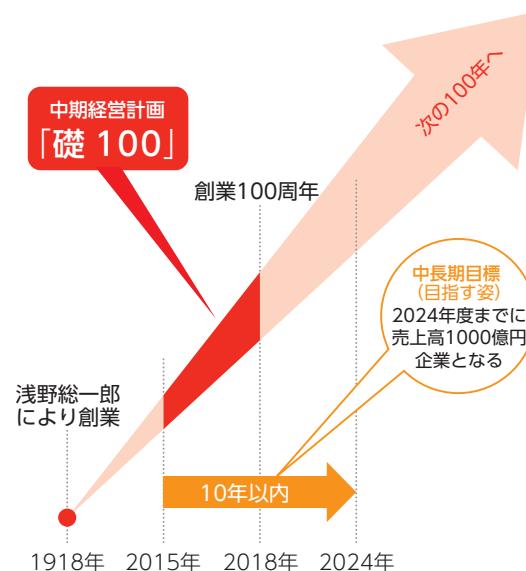
QUESTION・6

新社長の舵取りに株主様も期待を寄せています。改めてもう一言決意のほどをお聞かせください。

廣橋 この数年、当社グループは成長戦略のひとつとして、M&Aにも力を注いできました。事業領域も広がり、売上規模も拡大してきました。一方、収益率の改善は思うように進んでいません。株主様に報いるためにも、付加価値の高い製品の早期市場投入を実現する必要があります。

私どもはすでに着手している「新製品開発」や「海外展開」の歩みを止めることはありません。そのためにも、健全な財務基盤は欠かせないと

中期経営計画「礎100」のコンセプト



考えています。いま一度足元を見つめ直し、収益基盤と成長基盤づくりに全力を注ぎます。

経営トップの役割は目に見える成果をひとつでも出すことにあります。時間が限られた中でポイントを絞って成果につなげたいと考えています。

グループ企業間の連携を強め、総力を結集して、持続的成長と企業価値向上に取り組んでまいります。

なお、当社は企業価値の向上と透明性確保の観点から、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。本年の株主総会では社外取締役1名の増員を決定しました。

株主の皆様には引き続きカーリットホールディングスにお力添えを賜りたく、心よりお願い申し上げます。

カーリットグループは経済、社会、地域と3つの事業領域の相乗効果で、新たな成長

調和を図りつつ、を目指してまいります。



化学品事業部門 ▶

人々の安全を守る自動車用緊急保安炎筒、ロケット推進薬に使用される過塩素酸アンモニウム、パソコンなどに使用される機能性高分子コンデンサ向けピロール関連製品など、確かな技術によるモノづくりにより、人々の暮らしを支えています。



CHEMICALS



ボトリング事業部門 ▶

人々の暮らしの必需品となったペットボトル飲料や缶飲料の受託製造を行っております。ペットボトル飲料の生産では容器生産、調合、充填、包装、検査まで一貫した生産システムを充実させ、主として茶製品を安定的かつ効率的に生産・供給しております。



BOTTLING



産業用部材事業部門 ▶

パソコンなどに使われる半導体用シリコンウェーハ、都市ごみ焼却設備などに使用される耐火・耐熱金物、自動車・建設機械向けばね・座金などを製造・販売しており、産業の発展に貢献しています。



MATERIALS



その他 ▶

工業用塗料・塗装工事請負、上下水・排水処理施設等の設計・監理、設備の保守・管理や白蟻防除、不動産賃貸など、幅広い事業活動を行っております。



OTHERS

セグメント別の概況

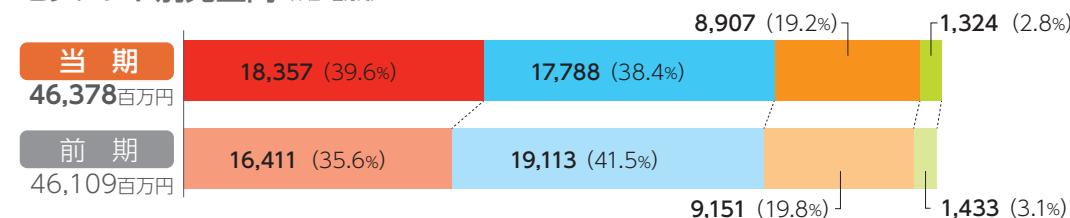
SEGMENT INFORMATION BY BUSINESS CATEGORY

連結売上高 46,378 百万円 (前期: 46,109百万円)

売上高構成比

■ 化学品事業部門	39.6% (同 35.6%)	■ ボトリング事業部門	38.4% (同 41.5%)
■ 産業用部材事業部門	19.2% (同 19.8%)	■ その他・消去	2.8% (同 3.1%)

セグメント別売上高 (単位: 百万円)



1 化学品事業部門

CHEMICALS

■ 売上高 18,357 百万円 ■ 営業利益 647 百万円



化薬分野においては、産業用爆薬は土木工事での需要増により増販となりました。自動車用緊急保安炎筒は、新車装着向けに関しては、新車販売台数が伸び悩んだことにより減販となりました。一方、車検交換向けは車検台数の増加により、緊急脱出時ガラス破碎機能付「ハイフレイヤープラスピック」を含め増販となりました。

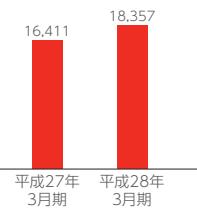
受託評価分野においては、危険性評価試験、電池試験ともに大幅な増販となりました。

化成品分野においては、パルプ漂白用の塩素酸ナトリウムは競争激化のなか微増に、固体推進薬の原料である過塩素酸アンモニウムはH-IIロケット用途の需要増加により大幅な増販となりました。また過塩素酸が輸出の好調により大幅な増販に、除草剤や防蟻剤も増販となった一方で電極は減販となりました。

電子材料分野においては、電気二重層キャパシタ用電解液とアルミ電解コンデンサ向け材料は海外向けの需要が増加したことにより増販となったものの、ピロール関連製品と機能材料製品は減販となりました。

また、平成28年2月に連結子会社化した合成樹脂原料の販売商社である三協実業(株)が業績等に寄与しております。

これらの結果、当事業部門全体の売上高は183億5千7百万円(前期比 11.9%増)、営業利益は6億4千7百万円(同73.7%増)となりました。



2

ボトリング事業部門

BOTTLING

■ 売上高 17,788 百万円 ■ 営業利益 414 百万円



夏後半の気温低下や暖冬の影響により飲料市場全体の需要が微増に留まった中、売上高は一部取引先の会計処理方法の変更により177億8千8百万円(前期比6.9%減)となりました。

一方、利益面では主力製品の緑茶の好調に

加え、缶珈琲が新製品の上市と既存製品のリニューアルにより増販し、営業利益は4億1千4百万円(同167.6%増)となりました。



3

産業用部材事業部門

MATERIALS

■ 売上高 8,907 百万円 ■ 営業利益 96 百万円



シリコンウェーハは、新興国のメーカーとの価格競争により、減販となりました。

研削材は、増販となりました。

金属加工品は、東日本大震災の復興関連案件の減少によりアンカー、リテーナとも減販となった一方で、自動窓拭き洗浄装置、ろ布は大幅な増販となりました。ばね・座金製品は中国を中心としたアジア地域の景気後退の影響や自動車の生産減などにより

軒並み減販となりました。並田機工(株)の傘下に設立したアジア技研(株)は、平成27年10月にスタッド事業を譲り受け、業績等に寄与しております。

これらの結果、当事業部門全体の売上高は89億7百万円(前期比2.7%減)、営業利益は9千6百万円(同78.7%減)となりました。



4

その他・消去

OTHERS

■ 売上高 1,324 百万円 ■ 営業利益 92 百万円



連結財務諸表

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表

単位：百万円

科目	当期	前期
	平成28年3月31日現在	平成27年3月31日現在
資産の部		
流動資産	20,826	18,231
固定資産	25,902	26,768
有形固定資産	18,032	18,574
無形固定資産	776	754
投資その他の資産	7,093	7,439
資産合計	46,728	44,999
負債の部		
流動負債	14,062	12,746
固定負債	10,229	11,627
負債合計	24,291	24,374
純資産の部		
株主資本	20,107	17,765
資本金	2,099	1,204
資本剰余金	1,192	346
利益剰余金	17,031	16,479
自己株式	△ 216	△ 264
その他の包括利益累計額	2,330	2,858
純資産合計	22,437	20,624
負債純資産合計	46,728	44,999

連結損益計算書

単位：百万円

科目	当期	前期
	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
売上高	46,378	46,109
売上原価	39,239	39,288
売上総利益	7,139	6,820
販売費及び一般管理費	5,889	5,621
営業利益	1,250	1,199
営業外収益	253	302
営業外費用	173	184
経常利益	1,330	1,317
特別利益	43	315
特別損失	101	138
税金等調整前当期純利益	1,272	1,494
法人税、住民税及び事業税	594	420
法人税等調整額	△ 76	9
当期純利益	754	1,064
親会社株主に帰属する当期純利益	754	1,064

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当期	前期
	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,294	968
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 795	△ 1,176
財務活動によるキャッシュ・フロー	424	△ 289
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 22	42
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,901	△ 454
現金及び現金同等物の期首残高	2,886	3,341
現金及び現金同等物の期末残高	4,788	2,886

会社概要

CORPORATE PROFILE

会社概要 (平成28年3月31日現在)

商号	カーリットホールディングス株式会社 (英文社名 Carlit Holdings Co.,Ltd.)
設立	平成25年10月1日
資本金	2,099,530千円
従業員	967名(連結)

主なグループ会社 (平成28年4月1日現在)

● 国内	
日本カーリット株式会社	医薬・化学品・電子材料品・研削材・煙火材料等の製造・販売および危険性評価試験並びに電池試験の請負
株式会社シリコンテクノロジー	半導体用単結晶シリコンおよび半導体用シリコンウエーハの製造・販売
カーリット産業株式会社	エンジニアリング、建設業務、白蟻防除の施工・請負
ジェーシーボトリング株式会社	清涼飲料水のボトリング加工
富士商事株式会社	工業用塗料販売および塗装工事
並田機工株式会社	各種耐火・耐熱金物等の製造・販売
株式会社総合設計	建築物、工作物、上下水・排水処理施設等の設計および監理
東洋発條工業株式会社	自動車および建設機械向け各種スプリングの製造・販売
株式会社西山フィルター	工業用繊維製品の加工・販売
アジア技研株式会社	スタッドおよび溶接機械の製造・販売
三協実業株式会社	合成樹脂原料の販売
● 海外	
佳里多(上海)貿易有限公司	化学品および電子材料等の仕入・販売
Carlit Singapore Pte.Ltd.	化学品および電子材料等の仕入・販売
上海騰発国際貿易有限公司	自動車および建設機械向けスプリングの販売
昆山唐発精密部品有限公司	自動車および建設機械向けスプリングの製造・販売

役員 (平成28年6月29日現在)

取締役および監査役	執行役員
代表取締役会長	出口 和男
代表取締役社長	廣橋 賢一
取締役兼常務執行役員	山本 秀雄
取締役兼執行役員	小西 正恭
取締役兼執行役員	金子 洋文
取締役兼執行役員	福田 実
取締役(社外)※	大村 扶美枝
取締役(社外)※	山本 和夫
常勤監査役(社外)※	古屋 直樹
監査役(社外)※	安達 義二郎
監査役	小沼 幸治
監査役	六本木 英次

※を付した役員は東京証券取引所に独立役員として届け出ております。

株式の状況

(平成28年3月31日現在)

STOCK INFORMATION

株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	24,050,000株
単元株式数	100株
株主数	31,414名

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託退職給付信託丸紅口 再信託受託者資産管理サービス信託	1,997	8.3
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,589	6.6
日油(株)	915	3.8
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	913	3.8
明治安田生命保険(株)	700	2.9
長瀬産業(株)	700	2.9
(株)大阪ソーダ	469	2.0
(株)りそな銀行	460	1.9
(株)群馬銀行	405	1.7
関東電化工業(株)	400	1.7

所有者別株式分布状況

金融機関	35.9%
個人・その他	35.8%
国内法人	25.6%
外国法人等	2.3%
証券会社	0.4%
政府および地方公共団体	0.0%

